

平成29年第2回教育委員会会議

平成29年2月8日

午前 9時30分 開会

1 開会宣言

○葛西教育長 ただいまから平成29年度第2回教育委員会会議を開会いたします。

会期は本日限りといたします。

本日の会議の欠席者を教育総務課長から報告願います。

○長谷川教育総務課長 本日、社会教育課長が欠席でございます。代理として葛山課付主幹に出席をいただいております。それから、国体推進課長も欠席でございます。

以上です。

2 会議録の承認

○葛西教育長 それでは、さきにお渡ししております平成28年第10回、第11回の会議録について、何かございますか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 それでは、承認といたします。

3 会議録署名者の決定

○葛西教育長 それでは、会議録署名者の決定に移ります。

お諮りいたします。

本委員会の会議録署名者として、渡邊委員と私とで行いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

4 議事

○葛西教育長 それでは、これより議事に入ります。

本日は、協議事項3件、報告事項2件ですが、報告事項の平成29年度当初予算について以外の事項は、市議会等の関係から非公開にて審議をしたいと思います。

委員の皆さん、ご異議ございませんか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 ご異議がないようですので、後ほど非公開といたします。

(1) 報告

1 平成29年度当初予算について

○葛西教育長 それでは、まず平成29年度当初予算について説明をお願いします。

○栗田副教育長 それでは、平成29年度教育費当初予算案概要についてです。

まず、9ページをごらんいただけますでしょうか。

教育費の予算額でございますが、予算額は118億7,868万円で、前年度が103億1,904万6,000円でございますので、対前年比115.1%、一般会計に占める割合が10.95%となっております。

10ページをごらんいただけますでしょうか。

こちらに年度別教育費の推移の棒グラフでございますが、こちらにございますように、29年度は、保健体育費の予算部分が大きく伸びております。これは、この科目別増減理由の保健体育費の網かけ部分にございますように、国体関連施設整備経費の増によるもので、28年度に対しまして33億3,436万4,000円の増額ということになっております。

それから、また2ページに戻っていただけますでしょうか。

新年度予算における基本的な方針につきまして、学校教育分野、文化財の整備、保存活用、図書館、博物館、スポーツ振興の分野について概要をご説明させていただきます。

まず、学校教育の充実でございますが、これは第3次学校教育ビジョンの6つの基本方針に基づきまして、本市が目指す「輝くよっかいちの子ども」の実現に向けて施策の充実を努めてまいりたいと思っております。

まず、(1)の社会人になっても通用する問題解決能力の養成に向けてでございますが、小中学校1年生における30人以下学級編制、1分間コメントの取り組み、中学生スピーチコンテストの開催、それから、平成29年度から新たに発行します四日市子ども広報を教材として活用していきたいと考えております。

また、外国語活動、英語教育の充実に向けまして、中学校での外国人英語指導員の増員や小学校での英語専科教員の拡充に加えまして、中学校3年生における英検I B Aの導入を行ってまいります。

加えまして、授業で活用するICT環境の維持整備や、教職員の資質能力の向上に努めてまいりたいと考えております。

なお、それぞれの事業の予算額につきましては、ごらんいただいたとおりでございます。次に、(2)の豊かな人間性と健やかな体を育む教育の充実でございます。

生徒指導につきましては、教職員の指導・相談体制の充実など、いじめや不登校への適切な対応に努めるとともに、全ての小中学校へのスクールカウンセラーの配置に加えて、必要に応じてハートサポーターやスクールソーシャルワーカーの派遣を行ってまいります。

また、食缶方式による中学校給食につきましては、平成29年度、30年度で基本構想、基本計画を策定して、早期の実現に努めてまいりたいと考えております。

さらに、特別支援教育の推進のためには、地域特別支援教育コーディネーターの配置や介助員、特別支援教育支援員の充実を行うとともに、また、学校人権教育の目的の実現に向けまして、さまざまな事業に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、(3)四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進でございますが、学びの一体化の推進に向けまして、新たに1中学校区に教育実践研究推進校区を指定いたしまして、実践研究を進めてまいりたいと思っております。

また、各学校に対しましては、学校づくりビジョン実現に向けた継続的な支援を行ってまいります。

また、さらに、外国人幼児・児童・生徒に対しましては、在籍校・園に適応指導員を配置いたしまして、日本語の指導をはじめとしたさまざまな指導や相談に努めてまいりたいと考えております。

さらに、四日市版コミュニティスクールの指定校の拡大、四日市子どもセミナーの実施など、本市の特徴を生かした取り組みを行ってまいりたいと考えております。

次に、(4)の学校施設・設備の整備でございますが、海蔵小学校は改築工事の実設計を行います。また、泊山小学校の校舎や屋内運動場等の大規模改修の設計を行ってまいります。

また、普通教室の空調設備につきましては、第3次推進計画期間内の整備、これを目標にいたしまして、PFI手法による導入可能性調査、業者選定といったことに着手してまいりたいと考えております。

また、防災対策として災害用の仮設トイレ設置のための便槽整備や中学校の特別教室の

窓ガラスの飛散防止対策、こういったことを行ってまいりたいと思っております。

次に、2番目の文化財の整備・保存・活用でございます。

これにつきましては、例年引き続きですが、国指定史跡の久留倍官衙遺跡の史跡地とエントランス地区の整備を行ってまいります。また、国指定天然記念物の御池沼沢植物群落の環境改善を行いますとともに、昨年12月にユネスコ無形文化遺産に登録されました鳥出神社の鯨船行事への積極的な情報発信や継続的な支援といったことにも取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、3番目の図書館、博物館等の施策の充実でございますが、図書館におきましては、安全対策といたしまして、つり天井の崩落対策工事を実施いたします。また、博物館におきましては、市制施行120周年記念の企画展の開催や映し出す星の数で世界一に認定されたプラネタリウムの事業の充実に努めてまいりたいと考えております。

最後、4番目でございますが、スポーツの振興につきましては、高校総体や国体に向けてまして、スポーツ施設整備を進めてまいりますとともに、トップアスリートによるスポーツイベントから市民大会までさまざまな大会の開催を通じまして、国体や高校総体の開催機運を高めてまいりたいと考えております。

概要は以上でございますが、この後、個別の事業につきまして各課長からご説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○長谷川教育総務課長 15ページ、四日市こども広報発行事業でございます。これは新規事業で、平成28年、今年度の職員による政策提案で、教育委員会事務局職員からエントリーいたしまして、見事大賞を受賞ということで予算化に至った事業でございます。

目的といたしましては、四日市の子どもにとって最も身近で読みやすい活字媒体として四日市こども広報を発行する。そして、子どもが四日市についてより深く知る学習教材として活用することにより、考える力や資料を活用する力を生かす機会の拡充を図ってまいります。

内容といたしましては、A4カラー4ページ程度を考えておりまして、小中学生、市内の子どもたちに約2万5,000部ということで、来年度はパイロット版を含め、年5回の発行、できれば月1回の発行にこぎつけたいと思っておりますが、来年度は年5回程度ということで考えております。

内容といたしましては、本市ゆかりの人物のインタビューや地域の名所等、四日市を紹介する記事、それから、季節や行事を紹介する記事で、子どもたちの意見をしっかり取り

入れて読んでいただける広報にしたいと考えております。

予算は237万5,000円ということでございます。

以上です。

○廣瀬指導課長 16ページでございます。

学校英語教育充実事業費でございます。目的といたしましては、次期学習指導要領の完全実施、小学校平成32年、中学校平成33年度の実施に向けて、英語教育の指導体制の強化、拡充を図ってまいります。

中学校の英語教育の充実においては、YEF四日市英語指導員を、現在の11人から段階的に増員していくことで授業の充実を図ってまいります。

新規事業としては、英検IBAを3年生で導入し、その結果を活用した英語の授業改善に努めてまいります。

CRTにつきましては、継続で、中学校2年生で実施をしていき、1年生での基礎の学力の定着を確認しながら授業改善を図っていきたいと考えています。

小学校の英語教育の充実につきましては、専門的な指導による英語指導力の強化と中学校英語教育へのスムーズな移行を図るため、英語指導員HEF、派遣の英語指導員の配置を見直しまして、専科教員を段階的に増員することにより、効果的な指導体制の充実を図ってまいります。

3番目、教員の指導力向上につきましては、小学校においては、英語の教科化に備えた研修会、中学校においては、次年度から全22校で活用しますCAN-DOリストの活用に係る研修会を実施することで教員の指導力の向上を図ってまいりたいと思っています。

予算額は8,765万円です。その他特財734万1,000円とありますが、これは職員宿舎、英語指導員の住居の家賃でございます。一般財源はごらんとおりです。

続いて、17ページでございます。

生徒指導・教育相談事業費です。途切れのない指導支援事業でございます。

こちらは、いじめ、暴力行為等の問題行動や不登校への対応の充実及びこれらの未然防止、早期発見、解決に向けた学校の教育相談的機能の体制の充実を図ります。

スクールカウンセラー、臨床心理士の配置につきましては、小学校の27校、市で配置している27校については年間33週に増やしていく。ハートサポーター、緊急を要する相談に応じるため、年間100回派遣できるような体制をとります。

スクールソーシャルワーカーにつきましては、こちらも全小中学校を対象に、年間30

0時間派遣できるよう増拡充を図ってまいります。

4番ですが、いじめ、不登校の未然防止、早期発見、早期対応のため、学級満足度調査Q-U調査を継続して行ってまいります。予算額3,279万2,000円でございます。

○今村教育施設課長 教育施設課の今村です。

では、18ページをごらんください。

普通教室空調設備整備事業でございます。

小学校の良好な学習環境整備のため、普通教室への空調設備を整備するものでございます。

内容としましては、PFI導入に向けた調査委託として、基本設計、民間事業者への意向調査、それからバリュー・フォー・マネーの試算検討、それをして、事業者選定業務委託として、実施方針の作成、特定事業の選定、それと、PFI事業を行う上での各種業務の支援でございます。

予算額としましては、2,500万円を上げさせていただいております。

また、債務負担行為として、事業者選定業務委託として、限度額2,000万円、期間につきましては、29年度から30年度までを上げさせていただいております。

その下に整備工事の工程としまして、導入可能性調査を29年度前半で行いまして、その後、事業者選定を29年度後半から30年度にかけて行い、31年度に設計施工を行いたいと考えております。

では、19ページをごらんください。

海蔵小学校改築整備事業費でございます。

目的としまして、老朽化したベランダ形式校舎である昭和40年建設の海蔵小学校の学習環境の充実改善を図るものでございます。

内容としましては、現在、屋内廊下がなく、ベランダを廊下として使用しているベランダ形式校舎であることから、バリアフリーの問題やトイレの配置等、機能面にさまざまな問題があり、改築工事を行うものでございます。

内容としましては、設計業務委託について、29年度につきましては実施設計という形になっております。それに伴いまして、改築工事を、鉄筋コンクリート4階建て5,800平米のものを建設するものでございます。

それと、既設校舎の改修、仮設校舎のリース、そしてグラウンドの設計、整備という形で事業内容を上げさせていただいております。

来年度、5,797万5,000円の予算額をいただきまして、実施設計の業務委託として行う予定でございます。

予定としましては、28年度に基本設計を実施しておりますので、29年度実施設計、そして、30年度に解体工事と本体工事に移らさせていただきます、31年度の3月をめぐりに工事をやさせていただいて、32年度に運動場の復旧工事を行うものでございます。

次のページにつきましては、配置図を示させていただきます。斜線部分について、改築校舎の形状を上げさせていただきます。あと、後ほど、協議の中で海蔵小学校改築工事の基本設計について説明をさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上でございます。

○上浦学校教育課長 21ページの中学校給食基本構想・基本計画策定事業費でございます。

いよいよ中学校給食が食缶方式による全員喫食に向けて準備をするということで、来年度、2年間にわたりまして実施方法等、検討を行いまして、基本構想、基本計画を策定していくというものでございますが、その策定支援をコンサルタント業者に委託するというので、来年度に500万、そして、30年度は700万と、総計1,200万を計上させていただきます。

以上です。

○葛山社会教育課課付主幹 社会教育課です。

22ページをごらんください。

ユネスコ無形文化遺産普及促進事業でございます。

昨年12月にユネスコ無形文化遺産に登録されました鳥出神社の鯨船行事を広く市内外に情報発信し、また、行事継承のための担い手の確保、育成に向けた支援を行ってまいります。

内容といたしましては、大四日市まつりに鯨船、4艘ございますが、全4艘そろって出演していただくことを考えております。

また、行事継承の支援としましては、現在の祭りの所作とか段取りなどを記録して、マニュアルを作成して、また、このマニュアルを活用して担い手育成講座というものを開催して、担い手の育成と確保に努めたいと思っております。

そのほか、ホームページの作成やまち歩きの小冊子など、開催して周知を図っていきたく

いと思います。

予算額は430万円でございます。

以上です。

○中村理事 理事の中村でございます。

私からは、まず、霞ヶ浦緑地運動施設整備というところで、国体関係というところがございます。既にご承知の平成30年の高校総体、平成33年の三重とこわか国体に向けた霞ヶ浦緑地でのスポーツ施設というところで、新テニス場、それから新野球場の整備に向けての事業費でございます。

大きく3点ございます。

1点目は、新テニス場の整備工事費というところで、15億1,250万円の事業費を計上してございます。

2点目につきましては、それに伴う管理業務委託でございます。

それから、3点目でございますが、これは新野球場の設計業務委託費というところで計上させていただいております。来年度、基本実施設計を行うものでございます。予算額合計としましては、15億7,250万。財源は国庫支出金、それから市債ほかでございます。

3事業合わせた3カ年の事業内訳は下にあるとおりでございます。

続きまして、24、25ページをごらんください。

中央緑地運動施設整備事業費、これも国体関係分でございます。大きく10本ございます。そのうち、1番から4番でございますが、これは新体育館についての事業でございます。

1番目は体育館の建設事業費として6億1,700万。それと、それに伴います管理業務委託。それから、同じく体育館の建設に伴います発注支援というところの委託費。それから、同じく新体育館の整備工事積算業務委託。この4本でございます。

それから、5番から7番は、新サッカー場についての計上でございます。5番目につきましては、クラブハウスの整備工事費。同じく6番目は、それに伴います管理業務委託。それから7番目は、新サッカー場の整備工事費でございます。それから、8番から10番につきましては、場内のインフラ整備に伴うものでございます。8番目は、既存の公共下水管の盛りかえ工事というところでございます。それから9番は、これはもともとガス管が低圧でございましたが、それを今度の工事の関係で中圧ガスにかえると。それから、1

0番はガス管の支障移設というところがございます。

予算額としましては、19億2,678万円と。財源は同じく国庫支出金、市債ほかで
ございます。

また、平成29年度からの債務行為としまして、25ページにございますとおり、中央
緑地新体育館の整備及びそれに伴います管理業務委託、それが平成32年度までの4年間。
同じく、サッカー場のナイター照明、これにつきましては平成30年までの2年間の設定
でございます。

これら11事業の設定期間の事業内訳については、下の参考資料のとおりでございます。

以上でございます。

○長谷川教育総務課長 続きまして、参考資料といたしまして、27ページ以降でござい
ますが、これは教育民生常任委員会予算分科会に教育委員会分として出した個別事業調書
の部分でございます。

まず、私から、27ページ、学校規模等適正化事業につきましてご説明いたします。

これは、この後でもまた議論いただきますが、学校の規模、配置、そして施設の課題に
つきまして、また29年度もしっかりと進めてまいるというところでございます。

内容といたしましては、まず、学校規模等適正化計画の改訂、児童生徒数推計と検討対
象校の判定、そして、その検討対象校に対する保護者や地域関係者の方々と情報共有、対
応の協議、そして、2つ目でございますが、小規模校対策事業といたしまして、今年モデ
ル的に実施をいたしました小規模対策事業でございますが、検討対象校、小規模校を対象
に、小規模のメリットを最大化、デメリットを最小にするための事業、そこに例がござい
ますが、こういう事業を実施してまいります。

また、3番目といたしまして、学校規模等適正化検討会議、これを来年度も開催させて
いただきたいと思いますと考えております。

こういうところで、教育環境の充実、改善というところを来年度もしっかり進めさせて
いただきたいと思いますと考えております。

予算額は139万5,000円。

以上です。

○廣瀬指導課長 続いて、28ページでございます。

四日市版コミュニティスクール推進事業でございます。

こちら、ご存じのとおり、学校、保護者、地域がそれぞれの持つ教育的役割と責任を認

識し、協働して学校運営や教育活動の充実に取り組む。地域とともにある学校づくりを推進するものでございます。

今回も四日市版コミュニティスクール指定校を27校から7校を追加して、34校に増やしていきたいと考えています。

情報発信といたしましては、コミュニティスクールの活動内容等について情報提供を行うためのリーフレット等を作成し、啓発をかけてまいります。

委員の研修については、運営協議会委員の研修会や委員長会議を実施するとともに、地域とともにある学校づくり推進協議会、こちらは県、国の主催の研究会ですが、こういったものに委員方を派遣させていただくことで、指定校の取り組みのさらなる充実を図るものでございます。

予算額512万9,000円でございます。

以上です。

○山下人権・同和教育課長 人権・同和教育課からは学校支援地域本部推進事業について説明をさせていただきます。

29ページです。

目的は、教員OBや学生ボランティアを含む地域住民が、その知識、技能を活用していただき、教育的に不利な環境にある子どもたちに対する支援体制を構築するとともに、子どもたちへの基礎学力の定着及び学習意欲の向上を目指すものです。

主な活動といたしましては、拠点を地域における集会所、または学校において、放課後や長期休業時等における補充学習としての学習指導を行うとともに、学校教育現場における子どもたちの学習全般を支援いたします。

28年度、3中学校区で実施してまいったものを、29年度は40学校区に拡充をして行う予定です。

期待する効果として、地域住民が学習支援等のスタッフとしてかかわっていただくことによって、学びの場として子どもたち自身が学習に向き合う意欲が向上すること、また、地域住民と子どもたちのつながりによって生まれる子どもたちの居場所づくりという両面で活動をしていきたいと考えています。

予算額は180万円。内訳として、県の支出120万円、一般財源60万円となっております。

以上です。

○田中教育支援課長 教育支援課です。

続けて、30ページをごらんください。

四日市子ども科学セミナー事業（地方創生分）です。

目的は、例年行っておりますとおり、ものづくり、環境、宇宙をテーマにした四日市科学子どもセミナーを開催するということです。

子どもたちに科学への興味、関心を高めるとともに、科学の有用性、あるいは社会のために役に立つ科学ということで、子どもたちに実感をさせていきたいと考えております。

内容につきましては、2の5つのセミナーを来年度も開催したいと考えておりますが、(5)をごらんください。

宇宙に関する講演会ですが、来年度は市制120周年記念ということで、その一環のイベントとして開催をしたいと考えております。現在のところ、元女性宇宙飛行士の山崎さんに講演をしていただけないかということで日程調整を現在しておるところで、何とか8月末ごろに来ていただければそうなめどが立ってきているという状況でございます。

予算としては368万4,000円です。前年度より若干増額しているのは、そういう講師の方の部分ということで考えていただければと思います。

続きまして、31ページです。

新ということで、教育情報通信システム運営費（推進計画）分です。

目的としましては、平成21年度に、市内小中学校に導入しました電子黒板等の機器につきまして、修繕及び段階的な入れかえを行いたいということです。それによりまして、ICTの学習環境の維持を図っていきたいということです。

内容としましては、1つ目は修繕、2つ目は入れかえということで、入れかえにつきましては電子黒板8セット分を考えております。

予算額としては750万円を計上しております。

続きまして、32ページをごらんください。

特別支援教育・相談事業、適応指導教室事業という形で上げさせていただいております。

目的としましては、障がいや発達及び不登校の課題のある子どもさんたちへの教育相談、そして、就学相談及び校内支援体制という形で、学校内の特別支援教育の体制をきちんと整備していきたいということです。

内容としましては、(1)のところ、2つ目をごらんください。

2つ目の項目、特別支援教育コーディネーター等による就学相談や校内通級実施校への

非常勤講師の配置という形で、このことによりまして、就学相談及び校内の支援体制の整備を図っていききたいと考えております。

2番につきましては教育相談、3番につきましては適応指導教室の指導充実という形で、従来どおりの取り組みを充実させていききたいと考えております。

予算額としては1,740万6,000円を計上しております。

以上でございます。

○葛山社会教育課課付主幹 社会教育課です。

33ページをごらんください。

久留倍官衙遺跡整備事業でございます。継続中でございます久留倍官衙遺跡の歴史公園整備事業でございますが、29年度は史跡地の遺構の表示、建物跡の柱穴の表示並びにエントランス地区では駐車場の舗装等の整備を行ってまいります。

このエントランス地区につきましては、ガイダンス施設も建っておりまして、中の展示も進んでおりますので、駐車場の舗装整備等でほぼ整備が完了いたしますので、平成30年3月を目指してオープンの準備を進めたいと思っております。

また、普及啓発事業や維持管理事業も引き続き行ってまいります。

28年度、今年度には、正殿という休憩所なんですけれども、完成いたしましたので、そのような現場見学会なども行い、また、ガイダンス施設もオープンいたしますので、学ぶ場というのが提供できますし、これから市内外に久留倍官衙遺跡の情報発信を強めていきたいと思っております。

予算額は1億5,236万5,000円で、国と県の補助金で、財源内訳ですが、県の支出金で6,334万5,000円と一般財源8,902万円としております。

以上です。

○村上図書館長 図書館でございます。

34ページ目をごらんください。

天井崩落対策事業でございます。

2番、内容でございます。図書館の一般成人室の吹き抜け天井につきまして、撤去工事を実施したいとするものでございます。この工事等に伴う2カ月半という長期の休館が予定されます。その間につきましては、図書の貸し出し等を行う臨時貸し出し窓口を設置しようとするものでございます。

一番下の1階平面図をごらんください。

上の大きな斜線部分が工事対象区域でございますが、工事の搬入ヤードといたしまして、入り口のところから玄関ホールまで封鎖されてしまいます。児童室にも入り口もバリケードができるという状況になりますので、開架につきましてご利用いただくことができないということの工事期の休館が長期にわたりますので、その間、一番下の斜線にございますが、臨時貸し出し窓口を設置していきたいと考えてございます。

なお、移動図書館につきましては、通常どおり運行できるということで、バックヤード等につきましては使える状況でございます。

予算額につきましては、2,069万5,000円でございます。

下の内訳にございますように、つり天井の崩落対策の工事、これが1,380万。図書や設備の一時撤去委託ということでございます、この工事区域に多くの図書がございますが、それを全部撤去しなければならない。また、パソコン等についても一時撤去しなければならないということで、580万余りがございます。そして、臨時貸し出しの窓口、臨時返却のポストの設置等につきまして、103万8,000円余かかるという内容でございます。

説明は以上でございます。

○伊藤博物館副館長 35ページをごらんいただきますようお願いいたします。

博物館特別展等開催費でございます。

例年とおり、展覧会、博物館主催では4本来年度もさせていただこうと思っております。来年度は市制施行120周年を記念するというので、メイド・イン・ヨッカイチ、これは、四日市の120年の歩みを市内で生産された製品とともに振り返りたい、そして、現在つくられている製品も展示をしてもものづくりが盛んな本市を知っていただきたい。そういった魅力を発信していきたいと思っております。

また、秋ごろには、阿弥陀さまと極楽の世界という展覧会をしたいと思っております。こちらは、市内の寺院の約8割が阿弥陀如来を本尊としているということでございまして、この阿弥陀信仰を通して、四日市の風土というのを皆さんに知っていただきたいと思っております。

こうした展覧会を通しまして、特に郷土を大切にすることを市民の方に育てていただきたいと考えております。

予算額としましては、3,571万6,000円を上げさせていただいております。

ページを開いていただきますと、36ページ、プラネタリウム投映事業でございます。

世界記録に認定されたプラネタリウムの機器を来年度も引き続き十分に発揮させることで、市民はもとより、市外からもたくさんの方に見ていただきたいと考えております。

また、小中学校向けの学習投映に関しても充実を図ってまいりたいと思っております。

引き続き、季節に応じて3ヶ月ごとに番組を入れかえて投映をしてまいります。特に来年度は、市内できれいに星空が見られるこの市内の場所を紹介しながら、ゆったりと星空と音楽を楽しめる番組というのを制作してまいりたいと思っております。

また、夜間開館も4月から毎週土曜日、特別番組であったり、宇宙塾、ライブコンサート等のイベントを土曜日の夜間にやっていきたいと思っております。

予算額といたしましては、2,134万3,000円を計上させていただいております。

以上でございます。

○川森スポーツ課長 37ページをごらんいただきたいと思えます。

霞ヶ浦緑地運動施設の整備事業でございます。これは四日市市総合計画の第3次の推進計画分でございます。

まず、霞ヶ浦緑地のスポーツ施設について、利用者の安全確保及び大会運営をさらに向上させたいというものでございます。

まず、霞ヶ浦プールの改修でございますけれども、こちら、プール槽がかなり古く傷んできているような状況でございます。このプール槽、25メートルと50メートルのそれぞれのプール槽を改修に当たりまして、その設計を予算計上させていただくものでございます。

続きまして、2つ目、霞ヶ浦の第2野球場のスコアボード改修でございます。これにつきましても、スコアボードの表示入れかえと、スコアボード裏側に回っていただきますと、階段等がかなり古くなってきておりまして、子どもたちが、子どもたちに限らずなんですが、そのスコアボードを実際に手で操作するとそこまで上がっていかないといけないということもございまして、ここにつきましてもかなり老朽化が激しくなっております。したがって、現在は危険のないような状態を保っておりますけれども、ここにつきましてもスコアボードの改修をさせていただこうというものでございます。新しいスコアボードについては、電光表示という形で考えてございます。これにつきまして、地質調査、それから測量業務、それから設計業務を行う予定でございます。

いずれにしましても、これを行うことで大会機能の向上、それから市民が安全に使っていただくことができるということを考えております。

予算額につきましては1,840万円、財源内訳につきましてはごらんのとおりでございます。

続きまして、38ページをごらんいただきたいと思います。

同じく、総合計画の第3次推進計画分でございますけれども、中央緑地の運動施設の整備事業でございます。

こちらにつきましては、中央緑地の陸上競技場の改修を図るための設計業務というものでございます。中央緑地陸上競技場に入っていたことがある方はわかっているかなと思いますが、かなり古い状態になってきておりまして、そしてまた、障がいのある方や年配の方も安心して使っていただくということを想定しまして、可能な限りスロープをつけてまいりたいなということを考えております。

それから、開閉等も鉄扉等で非常に困難になってきているような状況もございますので、この扉の入れかえであったりとか、あるいはトイレの改修であったり、内装塗装の改修ということを考えて設計を委託するものでございます。

予算金額につきましては430万円、財源内訳につきましてはごらんのとおりでございます。

以上です。

○中村理事 最後になりますが、39ページをごらんください。

国体等準備一般経費でございます。大きく3点ございます。

国体に向けては、現在、ハード整備を行っておるわけでございますが、国体開催には多くの仮設物の設置が必要になるというところから、仮設計画を作成していくための設計委託を計上するものでございます。大きくは中央緑地と霞ヶ浦緑地に分けての委託でございます。

2点目でございますが、これは先ほど言いましたハード整備、中央緑地の新サッカー場、霞ヶ浦緑地の新テニスの備品購入の費用でございます。

3点目でございますが、平成28年度に設立しました国体に向けての準備委員会、これの準備経費及び平成29年度に設立する平成30年度の高校総体の実行委員会、これらの運営経費を計上するものでございます。

予算額としましては5,823万4,000円、財源内訳としましては県支出金270万円、ほかは一般財源でございます。

以上でございます。

○葛西教育長 当初予算について説明させていただきましたが、何かご質問の点だとか、あるいはここはどうなっているのかというそういうことがございましたらお願いいたします。

○松崎委員 細かいところで、ちょっとわからなかったのが、32ページの特別支援教育のところ、先ほど説明いただきました内容1の2つ目の点のところですが、校内通級実施校への非常勤講師の配置とご説明いただきましたところ、その前のページの4ページのところの概略説明のところ、ちょうど真ん中あたりの特別支援教育についての教職員の専門性の向上に努めという、このあたりもちょっと拝見したんですけれども、この新しく非常勤講師を増員というのは、これは今まで介助とか支援をやってくださった先生プラス非常勤講師を特別支援学級につけるということになるのですか。担任の先生とどういう感じになるのですか。

○田中教育支援課長 介助員、支援員は従来どおりです。こちらも増員をという形で予算増をお願いしているところなんですけれども、それとは別に非常勤講師を小学校へつけて、その非常勤講師の浮いた時間で校内通級をしていただくような体制をとっていきたいということでございます。

○松崎委員 わかりました。ありがとうございます。

○加藤委員 9ページですが、いよいよ全体が10%を超えたということで、それなりにすごいことやと思うんですけれども、ちょっと見てみると、教育総務費から幼稚園費までの4項目について、いずれも減額になっていますよね、対前年比からいくと。このことから、いわゆる小中学校、幼稚園も含めた一般的な管理運営費等々がそこに圧縮されているというような状況はないですね？

○葛西教育長 これをちょっと説明いたします。

ここなんですけれども、まず、教育総務費が8,119万4,000円減になっています。これは主に、12ページを見ていただきますと、12ページの1、教育総務費の(2)の事務局費、ここの退職手当が6,500万減、それから事務局一般経費、教育総務費、これは2,745万円減と。要は、人件費が今年に比べて来年度は不要になっているということが主な原因になっています。

それから、もう一度9ページに戻りますけれども、9ページの小学校費、これが2億3,562万6,000円と、この分が減になっています。これの主な要因としましては、実は、この2月に国の経済対策がございまして、来年度の事業、四郷小学校の大規模改修が

あるんですけれども、その分が1億5,558万円、これが、本来であれば29年度で予定しておいたものを28年度に前倒しします。ですから、まずは1億5,000万ぐらいが、これが本年度2月の補整で、28年度の予算のほうに移っていったということが1つございます。

それから、空調設備、これは8,600万ほど今年度かかりました。それが、来年度、空調も小学校はございません、中学校もございませんので、合わせて、そういうものが少なくなっているということで、ここで2億3,000万ぐらいのお金が減になるということになります。

それから、中学校費、これ14億ばかり減になっています。このうち、同じように2月補正で笹川中学校の分、それから来年度の大池中学校の大規模改修の分、これらが合わせて6億4,000万強を、これがこの2月に補正になっております。

それから、今年度、笹中は10億近くお金を入れているわけですが、来年度はこれが3億から4億ぐらいの予算になっていますので、その差額の分があります。それにあと、空調は4,000万ほどございますので、来年度は要りませんので、それらを合わせると大体14億という数字になってきます。

前倒し、あるいは、本年度で事業が終わったもの。それから、幼稚園の1億7,500万減は、これは幼稚園の整備工事費、アセットマネジメント、これが約1億4,000万ほどございます。それが主なものです。

ですから、事業としましては、既に終わった、あるいは前倒しということでありまして、ソフト事業についてはさまざまなお金が今年よりも来年度上積みされているという、そんな状況になっています。

○加藤委員 いわゆる通常経費というのを圧縮されると、学校にとっては100万のお金も大変ですので、ぜひそのあたりが気配り、目配りをよろしくお願ひしたいと思います。

発言したついでに言っておきますが、16ページ、これ、11人から段階的に増員というの、大体目標はあるんですか。

○廣瀬指導課長 年1人ずつ増やして行って、推進計画の最後の年には2人で、全部で16人体制にする予定に。

○加藤委員 総合計画が出ていまして、あれを受け取るのね、これ。16人。

○廣瀬指導課長 はい。

○加藤委員 ありがたいことですけど、この際言っておけば、16人を目指してこれから

まだ増員して、いわゆるメンバーもかわっていくんでしょけど、Y E Fってイージージョブやと、いわゆる楽な仕事やという声も聞くこともあるんです、彼らから。この際ぜひ、四日市の英語教育をきちっと根づかせるために、活用方法というのか仕事の契約というのか、そんなのもきちっと見直して、学校が使いやすい、人に対して失礼な言い方ですけど、使い勝手のいいやっぱりY E Fの雇い方、雇用の仕方をぜひ考えてほしい。彼らは既得権で、もう既に来ている方はこれは違うと言ってすぐはねますので、新しく契約される方から順次やっぱり、これY E Fを取り入れて十数年、20年近くになりますよね。その間になかなかこの職務の見直しというのがされてこなかったと思うんです。だから、ぜひ一遍中身を考えて、四日市の英語教育にとって、こんな活用の仕方をする学校としても、あるいは子どもたちとってもすばらしいなというところを一遍、何をどうするというのは難しい部分もあるんでしょし、雇用の問題ですのでむちゃくちゃはできないと思いますけど、一遍考えていただくいい機会かなと思いますので、これは要望として述べておきたいと思います。

○葛西教育長 学習指導要領が変わってまいりますので、非常に、英語の4つの分野でそれぞれさらに高度なものを求められてくるという、そういう時期にも来ていますので、やっぱり、質を高めていこうと思えば中身についても、仕事のあり方についてもどう考えていくかって大事なことだと思いますので、そのあたりはあわせて検討もしていく必要があるのかなと思います。

○杉浦委員 確かに、視察に行かせていただいたときとかも、もったいないなと思うような場面もあったりしたんですよ。

○加藤委員 三滝中でしたか。

○杉浦委員 したんですよ。とはいえ、いろいろな先生にうちの大学もお願いをしたりしていると、やっぱり育てられた国というか、環境が違うと活字になっていないことが契約ではないので、できませんとかやりませんとか、結構そういう感覚がごくごく当たり前のことなんですけど、そういった文化もあるようなんですが。

今現在はどのような契約というか、依頼をするときというのは活字になっているんですか。

○加藤委員 意外と契約という部分で彼らは動きますよね。

○杉浦委員 そうなんです。なので、指導要綱でこういうところまで到達させてくださいねではなくて、一つ一つの業務とか、そういったことも書いてある書いていないで、結構

お願いしてもはねられる先生とか。私自身もすごく経験をしています。

○廣瀬指導課長 授業の中のアシスタント的なALTの役割以外にも、1日の活動を子どもたちとともにする中で、英語でコミュニケーションに親しむというような活動もやっています。そういうのも明記しています。お昼を一緒に食べたり、お昼休みにも触れ合ったり、部活動も時間があれば参加するような形で、1日を通して子どもと接するようなことは契約の内容には盛り込んでいます。今度16人体制に、推進計画の最後になれば、22校中半分の学校は常駐するという形になりますので、こうなると、全く今までとは活用の仕方というか、子どもたちの触れ合う時間も圧倒的に増えますし、英語の教員も、もちろん英語以外の教員も触れ合う機会も増えますので、もっと学校の職員としての意識も高くなっていくのかなと思うので、そのあたりは4年かけながら、指導よりもオールイングリッシュで中学校は行うこともありますし、もともとのこの増員のきっかけは、日本の英語の教師とALTのチームティーチング実施数がちょっと四日市の場合は比率が少なかったもので、ここをお願いして、全国平均を上回るような形のTTの授業時間の設定をしていきたい。そういったことから、このことをきっかけに英語教育の内容の充実を図っていきたくて考えています。

○加藤委員 今のお話の中の私が申し上げた1つとしては、いわゆるトップは誰かと。いわゆる指揮、命令系統の問題で、当然、指導課長なり、最終的には教育長になるのか、誰に雇われて、ボスがいて、現場に派遣した期間が長くなれば、その期間はそれぞれの校長ですよとか、何かそういう職務命令系統もある程度、若干、学校の校長先生の受け取り方も、これは指導課から派遣されておるのやで、あんたの好きにやってというような感じになってしまっておる部分もなきにしもあらずですし、校長から直接YEFに指導できるのか、指導できないのか、英語教員の年齢もさまざまですから、誰が指導するのか、それぞれの場面とか。そんなのもう一回きちっと見直しておくとか彼らの貢献していただく部分がもっと増えるんじゃないかなという意味で、締めつけよとかこき使えという意味ではなくて、それぞれの場面でどのように彼らがきちっと動ける体制をつくって、ひいては、児童生徒にとって非常にいい存在になっていけばいいかなと。

私も過去に姿を見ていて、うーん、と思ったときがありまして、今、改めて予算を見せられて、増員で、いい機会だから、これは一遍やっていただくといいのかなと思いましたが。

○松崎委員 チームティーチングで組まれる先生の意識によっても随分と活用が違うなど

思いましたので、そのあたりもよく話し合いなどもしていただいたりして、上手に使っていただきたいなど。

この間、ちょっと子どもが話していたんですが、給食のときに班に入ってくれたときの会話の中で、このように言葉を使うんだということを知って、とても自信がついたと言っていて、英語をちょっとしゃべれるような子たちが話しているのを耳にして、自然な会話の中でのほうがより子どもには身につくのかと非常に思いましたので、ぜひともそういう活用はどんどんしていただきたいなと思います。

それともう一つ、ついでに教えてください。

その下の欄の中学校3年生で英検I B Aを導入するという、これは3年生のいつぐらいの導入、時期的には。

○廣瀬指導課長 時期の検討は、今させてもらっているのですが、先進的にやっている千葉県が全部、県内の中学校、高校全部導入してしまっていて、これは11月に実施している。北九州が10月に実施していますので、I B Aで、より成果というか、できるできないの実感を伴うために、あまり早い時期だと学習していない内容が出ますので、そのあたりなのかなと思っています。ただ、10月、11月に受験すると英検をチャレンジする機会が1月しかなくなるというところがちょっとありまして、そこはちょっと悩ましいんですけど、早く持っていく、9月とか7月に持っていくと、ちょっと学力的に難しいところがございまして、私どもとしては2学期の実施を考えてはいます。ここはちょっと今から検討して固めていきたいと思っています。

○松崎委員 受けるのであれば、その結果を早く活用しないと卒業してしまいますし、早目に中学3年でこういったものがあるというのは、中学1年の時点で子どもさんたちには伝えるようにしていただいて、意識を高めていく1つの材料になればなと思います。

できれば、ほんとうの英検を受けるように早目に促したほうがより効果はあるんじゃないかなと思うんですけど。

○葛西教育長 そういうことも、指摘いただいたことも一体的に考えて、子どもたちの英語の能力を高めていきたいと思っています。

ほかにどうでしょうか。よろしいでしょうか。

では、それでは、これより先にお諮りしました非公開の案件である協議事項、報告事項に入ります。

傍聴の方はお見えになりませんね。よろしいですね。